

『里山産業論』

—「食の戦略」が六次産業を超える—

金丸弘美 著

これまで著書や講演を通し、「食」から地域を豊かにするさまざまな事例を紹介してきた著者が、本書ではもう一歩進み、イタリアやフランスの「食の戦略」を紹介するとともに、海外に劣らない取り組みをしている国内の事例、学校給食から社会保障問題への対応策に至るまで、深く切り込んでいきます。

第1章『日本の根強い誤解と失敗』では、全国1,000か所以上の地域を巡ってきた著者だからこそ言える厳しいダメ出しの数々に圧倒。「食を知らない」「健康と運動しないまちづくり」など、現場で体験した問題点を拾い上げて普遍化し、課題チェックリストとしても活用できる内容です。第2章『「食の戦略」—イタリア編』と第3章『「食の戦略」—フランス編』では、「ス

新書判

232ページ

定価（本体800円＋税）

KADOKAWA

3

名様



ローフード」や「味覚の講座」など現地での体験談を交えて紹介。第4章『食文化を読ませる』、第5章『食文化を仕掛ける』では国内で注目を集める地域を取り上げます。そして本誌読者に特にお勧めしたい第6章『「食の戦略」が社会保障を変える』。ここでは著者が全国の給食を巡る中で気づいたことがまとめられ、「今後の展開で必要なこと」として「地域の食材に何が
ありどんなものがあるのか知ること」「栄養士も食材の現場に足を運ぶこと」などのヒントが並びます。「子どもの健康に投資することは、地域の未来を創ること」という著者の思いが詰まっています。 (編集部)